

BioResource Now!

Issue Number 6 July 2010

国内外のバイオリソースを巡る様々な問題や取り組みについて、毎月ホットな話題をこのニュースレターで紹介していきます。



小林 正智 (理化学研究所バイオリソースセンター 実験植物開発室長)

ホット情報
No.32

国際会議開催報告 - 第21回国際シロイヌナズナ研究会議 -

P1-2

じょうほう通信
No.52

快適にインターネットで英文を読もう!

P2

NewsLetterに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法、及び国際条約により保護されています。

ホット情報 (NO.32)

理化学研究所
バイオリソースセンター
実験植物開発室長
小林 正智

国際会議開催報告 - 第21回国際シロイヌナズナ研究会議 - 21st International Conference on Arabidopsis Research (ICAR2010)

国際シロイヌナズナ研究会議 (ICAR) と日本での開催について

20世紀後半より国際連携のもと、シロイヌナズナ研究は大きく発展してきました。その原動力となった組織が国際シロイヌナズナ研究推進委員会 (MASC) であり、MASCの主催により最新の研究成果発表が行なわれる ICAR は、シロイヌナズナの研究者コミュニティとともに拡大を続けてきました。

1965年に第1回の ICAR がドイツで開催されたと記録されています。そして1990年代に入り、国際コンソーシアムによるシロイヌナズナのゲノム解析が開始されて以降、ICAR は研究発表と交流の場として欧米諸国の持ち回りで、ほぼ毎年開催されるようになりました。そして2000年代に入り、シロイヌナズナ研究が世界に広まったことから、本会議も欧米にアジア・オセアニア地区を加えた3地区のローテーションで開催することになりました。このたび横浜市で開かれた「ICAR2010」はアジア地区で2回目、我が国では初の開催となります。開催準備委員会には、理研を中心に研究機関や大学からの委員も加わり、研究コミュニティをあげての準備となりました。



シロイヌナズナ研究の節目にあたる会議

折しも今年、2001年から開始された「Arabidopsis 2010 Project」の最終年にあたります。本プロジェクトでは、シロイヌナズナの全遺伝子に機能の注釈をつけることを目標に、国際協力のもとでリソースや情報の整備が行われてきました。多くの成果をあげた本プロジェクトですが、遺伝子機能解析を目標としたシロイヌナズナのポストゲノム研究はこれで一区切りになる見込みです。そして次の10年は、non-coding RNA や epigenetics などシロイヌナズナの豊富なゲノム情報を活用した最先端の研究とともに、シロイヌナズナ研究から応用研究への成果の受け渡し が課題になると考えられています。そこで開催準備委員会では、「2010 and beyond」をテーマとして応用研究分野からも演者を招待し、広く植物研究コミュニティ間の交流を図る企画としました (写真1)。



写真1
“2010 and beyond” をテーマに開催された ICAR2010

ICAR2010 の開催と成果

6月6日より10日までパシフィコ横浜を会場として開催した「ICAR2010」には、日本を含む世界32カ国より1,305名の研究者が参加し、歴代2位の規模に達しました (写真2)。



写真2
メインホールで開催された6月7日の Plenary session

招待講演やポスター発表を含む演題総数は900を超え、システム生物学から作物ゲノム研究まで幅広い研究領域での発表が行なわれました。また特別企画として開催された NSF の “2010 and beyond” セッションでは研究コミュニティの将来についての討論が行われました。そしてセッションの合間にも、多くの参加者がコーヒーを片手に議論の輪をつくるなど、盛況な会議でした (写真3)。



写真3
休憩時間にロビーで議論する参加者

今回の会議で特筆すべきイベントとしては、シロイヌナズナ研究者と作物研究者との情報交換の場として NBRP の植物リソース、情報、事務局による特別展示企画を開催したことがあげられます。ポスターセッションが行われた7日と8日には参加者が次々にブースを訪れていました(写真4)。このほか、SSH 特別ポスター発表企画(スーパーサイエンスハイスクールの高校生による英語でのポスター発表)、市民公開講座なども行なわれ、密度の濃い、充実した5日間でした。



写真4 NBRPの展示ブースで説明を受ける参加者

植物研究の未来に向けて

既にふれたように、世界のシロイヌナズナ研究は節目を迎えています。次の10年は、これまでに蓄積されたリソース、技術、情報を作物や樹木の研究にどのように活用してゆかが焦点となります。我が国で開催された「ICAR2010」を契機として、基礎と応用、モデルと作物などコミュニティ間の垣根を超えて、研究者の交流がいつそう深まることを期待しています。■

快適にインターネットで英文を読もう!

英語のサイトで意味を思い出せない単語を見つけた時、どうしますか? 英単語をコピー & ペーストして辞書サイトで意味を調べるかもしれません。しかし、これは意外と手間がかかる作業です。今回は英語のサイトを読む際に、Firefox で英単語の意味を効率よく調べることができるツール「ライフサイエンス辞書ツール(以降、LSD ツールとします)」を紹介したいと思います。



LSD ツールとは

LSD ツール (<http://www.lsdtools.org/>) は、ライフサイエンス辞書プロジェクト (<http://lsd.pharm.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>) から提供されており、Web ページ中の生命科学用語を翻訳することができる辞書ツールです。ライフサイエンスの英単語に特化しており、9.3万語の英語用語、10.5万語の日本語用語を、用例・遺伝子情報などと共に利用することが出来ます。



インストール

Firefox で <https://addons.mozilla.jp/firefox/details/12157> にアクセスし、「Firefox ヘインストール」ボタンをクリックします(図1)。後は画面の指示に従ってインストールを完了させてください。(途中、「ソフトウェアのインストール」というポップアップウィンドウが表示された場合、「今すぐインストール」ボタンを押して作業を続行してください。)

図1. ライフサイエンス辞書ツール Firefox アドオンページ



じょうほう通信 [第52回]



LSD ツールのインストールが完了したので、次に LSD ツールの設定が正しく行われているか確認します。Firefox のメニューバーにある「LSD」という項目の、プルダウンメニュー内の「LSD」にチェックが入っていない場合、チェックを入れて下さい(図2)。



日本語訳を表示しよう

図2. LSD ツールの設定確認

いよいよ日本語訳を表示させてみましょう。ここでは例として、論文「NBRP databases: databases of biological resources in Japan」で確かめてみます。Firefox で <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2808968/> にアクセスしてください。意味を思い出せない英単語にマウスのカーソルを重ねると、意味や使い方が表示されます(図3)。

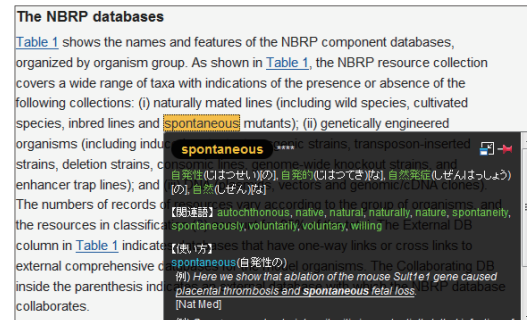


図3. NBRP databases: databases of biological resources in Japan における「spontaneous」に対する意味・使い方

最後に NCBI Bookshelf (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/books>) では、ライフサイエンスに関する書籍が無料公開されています。今回紹介した LSD ツールを使用して興味のある書籍を読んでみてはいかがでしょうか。(渡邊 聡)

お知らせ

詳細は <http://www.nbrp.jp/> からご覧になれます

第4回国際バイオキュレーション会議の開催

日時: 2010年10月11-14日 今年では日本のお台場で行われます。詳細はこちらから <http://hin.jp/biocuration2010/>

第18回国際ラット遺伝システムワークショップ

日時: 2010年11月30日(火) - 12月3日(金)
会場: 京都大学百周年時計台記念館
詳細はこちらから <http://www.anim.med.kyoto-u.ac.jp/workshop2010/>

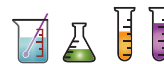
バイオリソース情報

- (NBRP) www.nbrp.jp/
- (SHIGEN) www.shigen.nig.ac.jp/indexja.htm
- (WGR) www.shigen.nig.ac.jp/wgr/
- (JGR) www.shigen.nig.ac.jp/wgr/jgr/jgrUrllist.jsp

ニュースレターのダウンロード先
URL: www.shigen.nig.ac.jp/shigen/news/

Contact Address

連絡先 〒411-8540 静岡県三島市谷田 1111
国立遺伝学研究所 生物遺伝資源情報総合センター
TEL 055-981-6885 (山崎)
E-mail brnews@chanko.lab.nig.ac.jp



Editor's Note

分子生物学の世界で植物のスーパーモデルであるアラビドプシスは、ゲノムの時代に新星のように現れたと思っておりましたが、第一回の ICAR が 1965 年に開催されたことを知って驚きました。ゲノムサイズが小さいだけでなくそれまでの研究の蓄積があったからこそ、スーパーモデルになったのでしょね。日本で初めて開催した ICAR の大盛況の様子が写真から伝わってくるようです。一方で、植物ゲノムデータベースを先導してきたアラビドプシスのデータベース「TAIR」ですら持続的な資金援助が望めなくなっているという事実です。(Nature 462,258-259,2009) 優れたデータベースの行方にも今後注目していきたいです。(Y.Y.)